

平成30年度第1回きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会（紀北会場）

1. 日時 平成30年6月29日（金） 13:30～16:30
2. 場所 和歌山市南コミュニティセンター
3. 参加者 学校教育関係者 学校運営協議会委員
市町村教育委員会きのくにコミュニティスクール担当者 等
合計 50名
4. 内容

◆実践発表

「きのくにコミュニティスクール導入1年目を振り返って
～成果と課題～」

A 和歌山県立笠田高等学校 教諭 井端 良樹 氏

○第1回学校運営協議会

①出された意見

- ・学校運営協議会が笠田高校の「真の応援団」となることが大切
- ・ソフトボール部の生徒が、タバコ等の細かなゴミを拾うなど、駅前を丁寧に掃除して地域に貢献

②今後の取組等への具体的提案

- ・小・中・高等学校と地域が合同で駅前や通学路の清掃を実施
→無理のないよう今後検討
- ・通学路の安全について、学校と地域が連携した生徒の見守り
→合同実施予定で、かつらぎ町等と調整済み
- ・小・中・高等学校の授業交流
→笠田小・笠田中学校の学校開放に参加
浜田小学校の研究授業に参加予定
来年度は、小・中学校から高校へ



○教職員・生徒・保護者・地域住民の方が「学校評価」の集計結果についての意見交換

- ・学校に誇りを持っている生徒が多いのは良いこと
- ・地域住民の方々へのアンケートの中から、好評だったことや意見を生徒に伝える。

○今後の学校運営協議会の課題

- ・管理職と担当教員が中心となって学校運営協議会に携わってきたが、他の教職員や生徒も参加できるよう学校運営協議会を拡充

B 和歌山市立高松小学校 校長 十河 秀彰 氏

○地域とともにある学校

- ・地域・保護者とのあたたかい連携の充実
- ・図書ボランティアの定期的な活動による、魅力ある学校図書館の創造
- ・小学校と校区子供センターの共催による土曜フェスタの開催（今年度で4回目）

○成果

- ・地域と学校が、子供たちの成長のために、同じ方向を向いて取組を進めることができた
- ・本校の教育に芯が通った



○課題

- ・カリキュラム・マネジメントに位置づけ、PDCAサイクルを回していくことが必要である。

◆講演

『次世代の学校・地域創生プランの具体化～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的、効果的な推進～』

文部科学省CSマイスター

福岡教育大学教職大学院 教授 森 保之 氏

○学校としてのポリシー

- ・管理職の人事異動があっても揺るがない
- ・学校が地域を元気にする中心となる

○校長のマネジメント力

- ・勤務時間内に開催される学校運営協議会には、教職員も参加や見学を促し、さらに、分掌の中に学校運営協議会の役割を含めていく
- ・開かれた学校をめざし、生活科・総合的な学習の時間等の授業に地域の方々にも参加してもらう

○学校運営協議会委員やコーディネーターの人選

- ・地域や学校に協力して、子供を育てることに関わる人を育てることが重要であるため、コーディネーターは必要である

○学校として

- ・小学校は地域参加、中学校は地域貢献をめざし、高校はそれらを更に向上させる

○地域として

- ・子供は1日のうち、学校で8時間、地域で16時間活動しており、地域が子供と一緒に活動することが重要



5. 参加者の声（アンケートより）

- ・学校と地域の目標が繋がらないといけない。ビジョンの共有が大切である。（小中学校教職員）
- ・「地域連携協働カリキュラム」を作成し、その内容を教育課程に落とし込んで考えたい。（小中学校教職員）
- ・類似する地域（都市・農村・過疎・新興住宅地等）でのグループ協議を希望する。（小中学校教職員）
- ・ディスカッションの時間に地域や学校種別が異なる方々と交流し、それぞれの課題を克服しながら前向きに頑張っている様子がわかった。（県立学校教職員）
- ・特別支援学校におけるコミュニティスクールの話が大変参考になった。（県立学校教職員）
- ・校種別の研修会を開催してほしい。（県立学校教職員）

